

自己評価報告書

平成 23年 5月 20日現在

機関番号：32414

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 (年度) ~ 2011 (年度)

課題番号：20520075

研究課題名 (和文)：19世紀前中期の江戸・東京における家族の実態と道徳思想

研究課題名 (英文)：Realities of family and moral thought in the early to middle 19th century Edo-Tokyo

研究代表者：

早川 雅子 (HAYAKAWA MASAKO)

目白大学・社会学部・教授

研究者番号：70212305

研究分野：日本思想史

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：民衆思想史、通俗道徳、孝、幕末から明治初頭期の都市社会、幕末から明治初頭期の都市住民、人別帳データベース、近代家族

1. 研究計画の概要

本研究の対象は、19世紀前中期（幕末から明治初頭期）の江戸・東京における家族である。この時期の都市家族は、家族史研究でいわれる‘近代家族’に近い性格を有しており、その原初と位置づけることができる。

研究の目的は、対象とした都市家族の実態と日常道徳を、人別帳と文献との二つのデータから解明するとともに、近代家族との連続性を展望することにある。

研究計画は、以下の3点から構成される。

(1)江戸・東京に残存する26本の人別帳 (=人口調査記録)・戸籍を解読し、データベースを作成、Web上に公開する。

(2)人別帳データを分析し、①住民構成、町内構造などの観点から都市社会の実態を、②家族形態・世帯構成、居住階層、職業、町内居住期間、相続の有無などの観点から都市家族の実態を明らかにする。

(3)道徳思想の研究では、①都市社会や住民の現実という文脈から、民衆道徳の内容や意義を捉え直すこと、②この時期の都市住民の道徳思想が、近世の村落共同体における道徳思想がどのように展開し、近代家族の道徳思想がどのように連続するかに関して、一定の見解を示す。

2. 研究の進捗状況

研究計画(1)～(3)ごとに報告する。

(1)①江戸末期の人別帳4本を収集した(「慶応4年4月 牛込放正寺門前町人別書上町」

「明治1年3月 渋谷宮益町人別帳」「明治2月1日 渋谷宮益町人別帳」「明治2年6月 渋谷宮益町人別帳」)。収集史料は、確認済22本に加え、26本になった。②人別帳の解読とデータベース化はほぼ終了した。データベース作成ソフトウェアには、ファイルメーカー社製 File Maker Pro を用いた。③Web公開のため、データベースの最終チェック、及び、公開・管理を協業する専門技術者の選抜中である。公開データの取捨選択では、明治期作成の戸籍等、個人情報に抵触する危惧があるものを、除外することにした。公開用ソフトウェアは、上記 File Maker Pro と、マイクロソフト社製 Excel を併用する。

(2)データ分析では、ハメル-ラスレット分類法を修正した方法を用いて、家族形態を分類。家族形態に、居住階層、職業、在住期間等を重ねることで、個々の家族世帯を復元した。各町にほぼ共通する分析結果として、①有配偶世帯が全世帯の70%超で、村落部の有配偶率に匹敵する、②有配偶世帯の大半は、夫婦と未婚の子からなる単純家族世帯で、この形態は主に経済的理由から再生産される、③町内に定着した上層住民世帯には、‘直系家族’の構造が認められ、イエの継承存続の理念が形成されつつある、以上の3点を指摘できる。その他、老齢の親と同居する未婚者が男女とも10%以上は存在し、介護や未婚者の高齢化への対策など、現代社会に連続する問題も明らかにした。

(3)道徳思想では、孝を取り上げた。①近世中期の孝の特徴は、太宰春台撰『古文孝経 孔氏伝』とその解釈本の分析によれば、身を立

てる行為＝家の維持存続が強調される点、孝の動機として報恩が設定される点である。②幕末期にいたると、都市家族の孝の動機付けに、親子間の愛情が加わり、近代家族の孝と共通する要素を認めることができた。また、この愛情は、孝養や養育の実践の積み重ねを通して形成される点も明らかにした。この考察には、民間に流布した教訓本や「孝子伝」を資料にした。

3. 現在までの達成度

(1) ③…Web公開の開始時期の遅れ。

(2) ③…研究成果の報告書作成の遅れ。

(1)(2)の主な理由は、2点である。①渋谷宮益町人別帳4本に、錯簡と闕本があることが判明。テキストクリティークを重ねて信憑性が高い1本を確定し、それを底本にして3本を解説した。この作業に、想定外の時間を要した。②平成22年7月、原因不明の低酸素血症を発症、8月、精査を目的とした背部分切除手術のため入院。回復するまで、長時間のデスクワークや、フィールド調査、Web公開の協業技術者の選抜など長期の外出を要する作業が困難な期間があった。

(3) ②

4. 今後の研究の推進方策

(1) 人別帳データベースのチェックを完了、専門技術者との協議が終わり次第、7月末を目途にWeb公開を予定。

(2) 江戸・東京町方人別帳の分析結果の総括。総括の観点は、人別帳の性質3点から設定した。第一は作成年度で、慶応2、3(1866、67)年度に6町6本と集中。第二は地域で、四谷と渋谷に二分される。第三は調査期間で、「四谷塩町一丁目」「麴町十二丁目」が長い。総括の観点は、3点である。①年度：慶応2、3(1866、67)年度における家族形態の特徴、②地域：現四谷地区と現渋谷地区との地域間の特徴、③社会的階層：塩町一丁目と麴町十二丁目を対象に、町内に定住した世帯と移動しつつ江戸に定着する世帯とに分類し、家族構成・年齢・職業・相続方法等の観点から、各階層の特徴を明らかにする。

(3) 近代への過渡的段階における都市家族の道徳として、孝道徳に着目する。幕末から明治初頭の都市家族における恩や親子間の情愛の内容を精察し、近世から近代への展開に一定の見通しを立てたい。この研究には、人別帳分析成果を活用し、都市家族の実態と道徳思想との関係にも論究する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ① 早川雅子、18世紀後半の孝道徳 - 「孝子伝」における孝行者 - 、目白大学人文学研究、7号、p.1-p.19、2011年、査読有
- ② 早川雅子、『古文孝経 孔氏伝』普及における分章の意義、目白大学人文学研究、6号、p.23-p.37、2010年、査読有
- ③ 早川雅子、太宰春台撰『古文孝経 孔氏伝』における孝道徳 - 「第七 孝平章」を中心に - 、筑波大学 哲学・思想論叢、27巻、p.61-p.76、2009年、査読有
- ④ 早川雅子、太宰春台撰『古文孝経 孔子伝』「第11. 父母成績章」の意義、目白大学人文学研究、5号、p.15-p.29、2009年、査読有
- ⑤ 早川雅子、幕末・維新时期における江戸町方家族と孝道徳 - 「四谷塩町一丁目人別帳」を史料にして - 、目白大学総合科学研究、5号、p.19-p.32、2009年、査読有

〔学会発表〕(計2件)

- ① 早川雅子、『古文孝経 孔子伝』普及要因としての〔章立て〕、日本思想史学会、2009年10月18日、東北大学
- ② 早川雅子、『古文孝経 孔子伝』における孝道徳 - 太宰本『孔伝』を中心に - 、日本思想史学会、2008年10月19日、愛知教育大学